

【令和2年2月】

地域を支える仕組みづくり

宮沢地区で連携して把握した「生活の困りごと」の結果報告が行われました

令和2年2月3日（月曜日）午前10時から宮沢地区公民館にて、公民館・民生委員・保健推進員の共催で「元気長生き いきいきサロン」が開催され、1年かけて実施した生活の困りごと把握の結果報告が行われました。

昨年の「元気長生き いきいきサロン」で実施した困りごと把握をきっかけに、宮沢地区全5地区を関係者が連携して実施しました。

結果として369個の声が集まり、1位（36票）「草むしり・樹木や花壇の手入れ」、2位（21票）「除雪・食事作り・片付け・買い物」、3位（20票）「話し相手」という結果報告が行われました。参加者からは行政区別の詳しい内訳をじっくり見て、「自由に集まることができる場所が欲しいね」などの感想が聞こえてきました。また参加者に集会所単位で集まる場が欲しいかという質問では、9割の方が手を挙げており、交流の場のニーズが高まっていることが明確となりました。

その後、公民館職員から把握した結果をもとに来年度の事業を計画していることの紹介が行われるなど、新たな展開についても話が出されるなど次につながる「元気長生き いきいきサロン」となりました。

高倉地区のコーディネーターが「生活の困りごと」把握に取り掛かっています

令和2年2月5日（水曜日）午前10時から中沢集会所にて地区の方々、保健推進員、民生委員、生活支援コーディネーターと共に「お茶っこ会」と合わせて「生活の困り事」把握カードを体験しました。高倉地区では今年度から、各地区をまわり地区のコーディネーターが進行を行い、住民の声に耳を傾けながら地道に把握を行ってきました。

今年度の活動も間もなく終わり、「来年度の活動」や「把握した困り事」の解決に向けても少しずつ進んでいるようです。

令和元年度第5回地域支援コーディネーター意見交換会を行いました

令和2年2月6日（木曜日）午後1時30分から大崎市役所本庁舎北会議室1階にて「令和元年度第5回地域支援コーディネーター意見交換会」を開催しました。

今回は、コーディネーターの活動を推進しているなかで必要性が高まっている資源開発に焦点をあて「目的・頻度・場所・担い手・工夫」等の様々な視点でコーディネーターがそれぞれの地域で資源開発をしていくために「集いの場立ち上げグループ」「生活支援立ち上げグループ」に分かれ、グループワーク形式でシミュレーションを行いました。

グループワークでは「これまで把握してきたニーズと資源開発の目的が離れていないか」「資源開発は誰のためのものなのか」ということを重点に話し合いました。それぞれの活動地域によって把握したニーズも異なっており、「今把握しているものとは違うニーズがあるかも」「子どもから高齢

者までが集まれる場があると世代間交流になるかも」と互いに気づきが多い意見交換となりました。

清滝地区振興協議会主催で「高齢者向けスマホ教室（基礎編）」が開催されました

令和2年2月12日（水曜日）午前10時から清滝地区公民館にて「スマホ教室（グーグルマップを使おう編）」が開催され、男性4名、女性6名の合計10名（内、初参加者は3名。）が参加しました。難しい操作の中、同じグループ内で「教え合い」の様子がみうけられ、終始笑いが絶えない会場になりました。「学ぶ」だけでなく「日頃の交流を意識化」を試みることで「見守り・見守られ」、「情報交換」、「困り事の相談」などの様々な効果があることにも気付いていただきました。

初めて参加した方は「やってみたい気持ちがあった。」との声もあり、実際に「カーナビ代わりに使えて良かった。」などの声もいただきました。今回の準備係として、以前開かれた「スマホ教室」に参加した方から「サポーターズ」を募り3名が活動してくださいました。今では「いきいき百歳体操」や様々な活動をサポートしています。

2回目は令和2年2月19日（水曜日）午前10時から「スマホ教室（キャッシュレス決済）」について行われ、男性4名、女性8名の合計12名が参加しました。

また、清滝地区公民館では「自助力」と「互助力」を上手に組み合わせ、住民が主役となり「自分が持っている『知識や技能・経験』などを『人に伝える。地域に生かす。思いを実現させる』」ことを企画としているようです。



秋田県大仙市大曲「大仙市交流プラザのびのびらんど」へ視察に行きました

令和2年2月20日（木曜日）午前10時から民生部社会福祉課地域包括ケア推進室の職員が秋田県大仙市にある「大仙市交流プラザのびのびらんど」の視察を行いました。大崎市ではコーディネーターの活動から集いの場のニーズが高まっており、空き家等の既存の資源を活用した住民主体の多世代交流ができる場を構築しているノウハウを参考にすることを目的に視察を実施しました。

のびのびらんどでは、週5日（定休日：日曜日・火曜日）「老人クラブ」の方々が商店街の空き店舗を利用して地域の「憩いの場」にし、地域の交流が深くなるように様々なイベントを行っています。小学生や子育て世代との交流や「マスターボランティア（市長等の市内の身近な人物）」を招き、講演を行っていただくなど「ひとつのつながりから様々なつながり」へ広がっていくように工夫が

ありました。

支援者の高齢化に伴い、人手不足に悩まされたときは「婦人会」と連携し「お互いの見守り」も兼ねて協力を受け「地域とのつながりも欠かさず」、多くの方とのつながりを広げる「交流の場」の拠点としていました。大崎市が目指している「支え合いの地域づくり」に向け、大変有意義な視察となりました。



医療と介護の連携

宮城県保健師連絡協議会にて大崎市の地域包括ケアシステムの取り組みについて報告しました

令和2年2月1日（土曜日）午後2時から東京エレクトロンホール宮城にて開催された、「宮城県保健師連絡協議会」にて民生部社会福祉課地域包括ケア推進室の職員が「大崎市流地域包括ケアシステムの深化推進」について報告しました。

この会議は「保健師の専門性を発揮した保健活動の充実を考える」をテーマに、保健師の専門性を発揮し地域の健康課題に応じた保健活動の展開につなぐために行われているもので「大崎市として地域の多職種と協働で進めている地域包括ケアシステム」について報告してほしいと依頼があり今回に至りました。

大崎市の他には仙台市若林区、宮城県東部保健福祉事務所（石巻保健所）からの報告が行われました。助言者である東北大学名誉教授からは「地域全体をいかにとらえているかが重要。大崎市は地域の個々の声を大切に、それを主とした展開をしている。」と講評をいただき、日頃関係者の皆様と進めている取り組みについて県内に発信する機会となりました。

大崎市医師会主催の第10回医学講座が開催されました

令和2年2月18日（火曜日）午後6時30分から大崎市図書館2階研修室にて、大崎市医師会主催による「今だから学びたい介護事業者向け医学講座」が開催され、市内の介護事業所に勤めるケアマネジャー等が52名参加しました。今回は熊谷皮ふ科 鈴木知子氏が講師となり「皮ふトラブル」についての講座が行われました。

参加者の感想としては、「皮膚科の研修はほとんどなく、『軟膏の塗り方』なども学べて良かった。」や「薬の仕組みや塗り方等を分かりやすく、理解しやすかった。」との意見をいただきました。

大崎市医師会では、介護に従事する職員が、医学的な知識と健康管理のポイントを学ぶことで高齢者等が安心な療養生活を行うことができるよう、大崎市図書館にて医学講座を開催していきます。

令和2年第10回ふらっといしかいサロンをオープンしました

令和2年2月22日（土曜日）午前10時から大崎市図書館2階研修室にて、第10回目の「ふらっといしかいサロン」をオープンし17人が来所しました。

このサロンは大崎市医師会主催で行っており、地域の方々が病気や健康管理のことについて「ちょっと聞いてみたいこと」を医師や看護師等に気軽に相談できる場になっています。お立ち寄りいただいた方の中には継続的にサロンを楽しみにしている方もいらっしゃいます。

午後1時30分から医師によるミニ講座では、民主病院 院長 呉 賢一氏による「高血圧」についての話が行われました。